

がん診療連携拠点病院等 現況報告書(新規指定推薦書・指定更新推薦書・指定類型変更推薦書)

令和4年9月1日時点について記載

※チェック欄に未入力なし

1. 推薦区分

地域がん診療連携拠点病院

現行の指定区分

地域がん診療連携拠点病院(高度型)

特定機能病院の承認

承認あり

(承認あり/承認なし)

臨床研究中核病院の承認

承認あり

(承認あり/承認なし)

2. 新規・更新・報告の別

指定更新

(新規指定/指定更新/指定類型変更/現況報告) 指定期限年月日: 令和 5 年 3 月 31 日

※推薦時点で、拠点病院等として指定を受けていない施設を推薦する場合は「新規指定」を選択してください。

※最新の指定における指定の有効期限の終了年月日を記入してください。

※推薦時点で、指定を受けている類型と同じ類型での指定を推薦する場合は「指定更新」を選択してください。

地域がん診療連携拠点病院(高度型)及び地域がん診療連携拠点病院(特例型)が地域がん診療連携拠点病院としての指定継続を希望する場合にも、「指定更新」を選択してください。

※推薦時点で地域がん診療病院の指定を受けている施設が、新たに地域がん診療連携拠点病院としての指定を希望する場合等、異なる類型の指定を希望する場合には、「指定類型変更」を選択してください。

※令和5年4月以降の指定更新を希望しない施設においては、「現況報告」を選択してください。

3. 病院概要

(1)病院名 (表紙シートの病院名を反映)

慶應義塾大学病院

よみがな

けいおうぎじゅくだいがくびょういん

(2)所在地等

郵便番号

〒 160-8582

住所

東京都

新宿区信濃町35

よみがな

しんじゅくしなのまち

電話番号(代表)

03-3353-1211

FAX番号(代表)

e-mail(代表)

HPアドレス

https://www.hosp.keio.ac.jp/

所属するがん医療圏

区西部

所属する2次医療圏

区西部

(3)病床数等

①病床数

総数

950

床

うち療養病床

0

床

うち一般病床

934

床

うち特別療養環境室としている病床

395

床

うち集中治療室(※特定集中治療室管理料を届け出ているものに限る)

20

床

(4)職員数

総職員数(事務職員含む、常勤職員の人数)

2,849

人

・常勤:原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

①職種別内訳

※複数の資格を有する者は、主たる業務に係る職種についてのみ記載。

非常勤

常勤

※(常勤換算)

医師

11.1375

人

798

人

歯科医師

1.05

人

33

人

薬剤師

3.82

人

117

人

保健師

0

人

0

人

助産師

0

人

51

人

看護師

7.18

人

1,132

人

准看護師

0

人

1

人

理学療法士

0

人

13

人

作業療法士

0

人

4

人

視能訓練士

0

人

17

人

言語聴覚士

0.6

人

8

人

義肢装具士

0

人

0

人

歯科衛生士

0

人

4

人

歯科技工士

0

人

3

人

診療放射線技師

3.8

人

90

人

臨床検査技師

4.3

人

159

人

衛生検査技師

0

人

0

人

臨床工学技士

0.53

人

33

人

管理栄養士

0

人

14

人

栄養士

0

人

0

人

社会福祉士

0.6

人

6

人

精神保健福祉士

0

人

1

人

公認心理師

0

人

0

人

介護福祉士

0

人

0

人

救命救急士

0

人

0

人

※②～④については、複数の資格を持つものは、両方にカウントする。

非常勤

常勤

②医師等の専門性に関する資格名に該当する人数等について

※(常勤換算)

一般財団法人 日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR専門医

0

人

8

人

一般社団法人 日本アレルギー学会 アレルギー専門医

1.1

人

12

人

公益社団法人 日本医学放射線学会 放射線科専門医

0

人

0

人

公益社団法人 日本医学放射線学会 放射線診断専門医

2.2

人

30

人

公益社団法人 日本医学放射線学会 放射線治療専門医
(日本放射線腫瘍学会 放射線治療専門医を含めてよい)

0

人

9

人

一般社団法人 日本核医学会 核医学専門医

0.9

人

6

人

一般社団法人 日本核医学会 PET核医学認定医

0.9

人

8

人

公益財団法人 日本眼科学会 眼科専門医

4.2

人

10

人

一般社団法人 日本感染症学会 感染症専門医

1.3

人

9

人

一般社団法人 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

2.2

人

94

人

特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 緩和医療認定医

0

人

1

人

特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 緩和医療専門医

0.1

人

1

人

一般社団法人 日本肝臓学会 肝臓専門医

0.2

人

15

人

一般社団法人 日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医

0

人

1

人

一般社団法人 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医

0.1

人

3

人

特定非営利活動法人 日本気管食道科学会 気管食道科専門医

0.5

人

3

人

一般社団法人 日本救急医学会 救急科専門医	0.8	人	16	人	88	✓	
特定非営利活動法人 日本胸部外科学会 指導医 (終身指導医を含めてよい)	0	人	2	人	89	✓	
特定非営利活動法人 日本胸部外科学会 認定医 (終身認定医を含めてよい)	0	人	3	人	90	✓	
一般社団法人 日本禁煙学会 認定専門指導者	0.1	人	2	人	91	✓	
一般社団法人 日本形成外科学会 形成外科専門医	1.4	人	12	人	92	✓	
一般社団法人 日本形成外科学会 皮膚腫瘍外科指導専門医	1	人	3	人	93	✓	
一般社団法人 日本外科学会 外科専門医	1.5	人	59	人	94	✓	
一般社団法人 日本血液学会 血液専門医	1.5	人	14	人	95	✓	
一般社団法人 日本呼吸器学会 呼吸器専門医	0	人	16	人	96	✓	
呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医	0	人	6	人	97	✓	
特定非営利活動法人 日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医	0	人	11	人	98	✓	
一般社団法人 日本サイコオンコロジー学会 登録精神腫瘍医	0.3	人	1	人	99	✓	
公益社団法人 日本産科婦人科学会 産婦人科専門医	3.7	人	43	人	100	✓	
一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会 耳鼻咽喉科専門医	1.1	人	14	人	101	✓	
一般社団法人 日本周産期・新生児医学会 周産期(新生児)専門医	0.1	人	3	人	102	✓	
一般社団法人 日本循環器学会 循環器専門医	5.7	人	35	人	103	✓	
一般社団法人 日本消化器外科学会 指導医	0.3	人	12	人	104	✓	
一般社団法人 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医	0.3	人	13	人	105	✓	
一般社団法人 日本消化器外科学会 消化器外科専門医	0.3	人	17	人	106	✓	
一般社団法人 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医	1.1	人	43	人	107	✓	
一般社団法人 日本消化器病学会 消化器病専門医	1.2	人	48	人	108	✓	
一般社団法人 日本消化器病学会 消化器病指導医	0.2	人	13	人	109	✓	
公益社団法人 日本小児科学会 小児科専門医	4.5	人	37	人	110	✓	
特定非営利活動法人 日本小児外科学会 小児外科専門医	0.2	人	3	人	111	✓	
一般社団法人 日本小児神経学会 小児神経専門医	0.1	人	3	人	112	✓	
一般社団法人 日本神経学会 神経内科専門医	0.2	人	15	人	113	✓	
心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医	0	人	8	人	114	✓	
特定非営利活動法人 日本心療内科学会 心療内科専門医	0	人	0	人	115	✓	
一般社団法人 日本腎臓学会 腎臓専門医	0.6	人	26	人	116	✓	
一般社団法人 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医	0.6	人	20	人	117	✓	
公益社団法人 日本整形外科学会 整形外科専門医	3.6	人	36	人	118	✓	
一般社団法人 日本生殖医学会 生殖医療専門医	0.1	人	6	人	119	✓	
公益社団法人 日本精神神経学会 精神科専門医	4.7	人	19	人	120	✓	
一般社団法人 日本専門医機構 総合診療専門医	0	人	0	人	121	✓	
一般社団法人 日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医	0.1	人	11	人	122	✓	
一般社団法人 日本総合病院精神医学会 一般病院連携精神医学専門医	0	人	0	人	123	✓	
一般社団法人 日本大腸肛門病学会 大腸肛門病専門医	0.5	人	4	人	124	✓	
一般社団法人 日本超音波医学会 超音波専門医	0	人	7	人	125	✓	
特定非営利活動法人 日本頭頸部外科学会 頭頸部がん指導医 (頭頸部がん暫定指導医を含めてよい)	0	人	1	人	126	✓	
特定非営利活動法人 日本頭頸部外科学会 頭頸部がん専門医	0.2	人	2	人	127	✓	
一般社団法人 日本透視医学会 透視専門医	0.5	人	17	人	128	✓	
一般社団法人 日本糖尿病学会 糖尿病専門医	0.4	人	12	人	129	✓	
一般社団法人 日本東洋医学会 漢方専門医	0.6	人	3	人	130	✓	
一般社団法人 日本内科学会 総合内科専門医	2.1	人	97	人	131	✓	
一般社団法人 日本内視鏡外科学会 呼吸器外科領域 技術認定所有者	0	人	0	人	132	✓	
一般社団法人 日本内視鏡外科学会 産科婦人科領域 技術認定所得者	0	人	6	人	133	✓	
一般社団法人 日本内視鏡外科学会 消化器・一般外科領域 技術認定所得者	0.3	人	9	人	134	✓	
一般社団法人 日本内視鏡外科学会 泌尿器科領域 技術認定所得者	0	人	3	人	135	✓	
一般社団法人 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医	1	人	18	人	136	✓	
日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会 内分泌外科専門医	0	人	1	人	137	✓	
一般社団法人 日本乳癌学会 乳腺専門医	0	人	4	人	138	✓	
一般社団法人 日本乳癌学会 乳腺認定医	0	人	1	人	139	✓	
特定非営利活動法人 日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医師A評価	0.4	人	8	人	140	✓	
特定非営利活動法人 日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医師B評価	0	人	8	人	141	✓	
一般社団法人 日本熱傷学会 熱傷専門医	0	人	2	人	142	✓	
一般社団法人 日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医	0.7	人	8	人	143	✓	
特定非営利活動法人 日本脳神経血管内治療学会 脳血管内治療専門医	0.5	人	4	人	144	✓	
一般社団法人 日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医	0.4	人	11	人	145	✓	
一般社団法人 日本泌尿器科学会/日本泌尿器内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医	0.1	人	5	人	146	✓	
公益社団法人 日本皮膚科学会 皮膚科専門医	2.9	人	14	人	147	✓	
一般社団法人 日本病理学会 病理指導医	5	人	7	人	148	✓	
一般社団法人 日本病理学会 病理専門医	7	人	8	人	149	✓	
公益社団法人 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医	0	人	11	人	150	✓	
一般財団法人 日本ペインクリニック学会 ペインクリニック専門医	0	人	3	人	151	✓	
公益社団法人 日本麻酔科学会 麻酔科認定医	0	人	3	人	152	✓	
公益社団法人 日本麻酔科学会 麻酔科専門医	0.3	人	16	人	153	✓	
公益社団法人 日本麻酔科学会 麻酔科指導医	0.2	人	15	人	154	✓	
一般財団法人 日本リウマチ学会 リウマチ専門医	0.7	人	18	人	155	✓	
公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション科専門医	0.9	人	6	人	156	✓	
公益社団法人 日本臨床細胞学会 細胞診専門医	4	人	19	人	157	✓	
特定非営利活動法人 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法指導医	0	人	5	人	158	✓	
特定非営利活動法人 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医	0	人	8	人	159	✓	
一般社団法人 日本臨床検査医学会 臨床検査専門医	0	人	3	人	160	✓	
特定非営利活動法人 日本レーザー医学会 レーザー専門医	0	人	0	人	161	✓	
一般社団法人 日本老年医学会 老年病専門医	0	人	2	人	162	✓	
一般社団法人 日本がん・生殖医療学会 認定がん・生殖医療ナビゲーター	0	人	0	人	163	✓	
一般社団法人 日本集中治療医学会 集中治療 専門医	0.3	人	6	人	164	✓	
一般社団法人 日本心血管インターベンション治療学会 専門医	0	人	3	人	165	✓	
一般社団法人 日本脳卒中学会 専門医	0.6	人	11	人	166	✓	
						167	
歯科医師						168	
公益社団法人 日本口腔外科学会 口腔外科専門医	0.2	人	8	人	169	✓	
一般社団法人 日本病理学会 口腔病理専門医	0	人	1	人	170	✓	
						171	
看護師						172	
公益社団法人 日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師	0	人	3	人	173	✓	

公益社団法人 日本看護協会	がん薬物療法看護認定看護師	0	人	0	人	174	✓
公益社団法人 日本看護協会	がん看護専門看護師	0	人	5	人	175	✓
公益社団法人 日本看護協会	がん性疼痛看護認定看護師	0	人	1	人	176	✓
公益社団法人 日本看護協会	がん放射線療法看護認定看護師	0	人	1	人	177	✓
公益社団法人 日本看護協会	緩和ケア認定看護師	0	人	2	人	178	✓
公益社団法人 日本看護協会	手術看護認定看護師	0	人	1	人	179	✓
公益社団法人 日本看護協会	精神看護専門看護師	0	人	2	人	180	✓
公益社団法人 日本看護協会	摂食・嚥下障害看護認定看護師	0	人	2	人	181	✓
公益社団法人 日本看護協会	地域看護専門看護師	0	人	0	人	182	✓
公益社団法人 日本看護協会	乳がん看護認定看護師	0	人	1	人	183	✓
公益社団法人 日本看護協会	皮膚・排泄ケア認定看護師	0	人	4	人	184	✓
公益社団法人 日本看護協会	慢性心不全看護認定看護師	0	人	1	人	185	✓
公益社団法人 日本看護協会	生殖看護認定看護師	0	人	1	人	186	✓
一般社団法人 日本インターベンショナルラジオロジー学会・一般社団法人 日本心血管インターベンション治療学会合同認定	インターベンションエキスパートナース	0	人	0	人	187	✓
						188	
③その他専門的技術・知識を有する医療従事者		非常勤		常勤		189	
※(常勤換算)						190	
一般社団法人 日本臨床腫瘍薬学会	外来がん治療認定薬剤師	0	人	1	人	191	✓
一般社団法人 日本医療薬学会	がん専門薬剤師	0	人	0	人	192	✓
一般社団法人 日本病院薬剤師会	がん薬物療法認定薬剤師	0	人	1	人	193	✓
一般社団法人 日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師	0	人	6	人	194	✓
特定非営利活動法人 日本乳がん検診精度管理中央機構	検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	0	人	12	人	195	✓
放射線治療品質管理機構	放射線治療品質管理士	0	人	1	人	196	✓
日本放射線治療専門放射線技師認定機構	放射線治療専門放射線技師	0	人	1	人	197	✓
一般財団法人 医学物理士認定機構	医学物理士	0	人	6	人	198	✓
公益社団法人 日本臨床細胞学会	細胞検査士	1	人	12	人	199	✓
一般社団法人日本人類遺伝学会及び日本遺伝カウンセリング学会	認定遺伝カウンセラー	0	人	2	人	200	✓
一般社団法人日本家族性腫瘍学会	家族性腫瘍カウンセラー	0	人	0	人	201	✓
一般社団法人 日本病態栄養学会/ 公益社団法人 日本栄養士会	がん病態栄養専門管理栄養士	0	人	1	人	202	✓
四病院団体協議会／医療研修推進財団	診療情報管理士	0	人	14	人	203	✓
一般社団法人 日本生殖心理学会	がん・生殖医療専門心理士	0	人	0	人	204	✓
						205	
④その他の従事者						206	
診療録管理部門の職員		0	人	12	人	207	✓
公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会	臨床心理士	1.8	人	2	人	208	✓
臨床試験コーディネーター		0.5	人	18	人	209	✓
(5)その他						210	
①夜間(深夜も含む)救急対応の可否				可	(可／否)	211	✓
②各種委員会の設置状況						212	
倫理審査委員会	あり	(あり／なし)	年 12	回開催(期間:令和3年1月1日～12月31日)		213	✓
治験審査委員会	あり	(あり／なし)	年 24	回開催(期間:令和3年1月1日～12月31日)		214	✓
医療安全委員会	あり	(あり／なし)	年 12	回開催(期間:令和3年1月1日～12月31日)		215	✓
						216	
(6)患者数・診療件数の状況						217	
①患者数等(期間:令和3年1月1日～12月31日)						218	
年間入院患者数※1				23,314	人	219	✓
年間入院がん患者数※2				2,759	人	220	✓
年間入院患者数に占めるがん患者の割合				11.8	%	221	
年間外来がん患者延べ数※3				116,235	人	222	✓
年間院内死亡がん患者数				57	人	223	✓
※1 同一患者について、当該期間における同一主傷病に対する複数入院はまとめて、1人と計上する。同一患者について、異なる主傷病に対する入院はそれぞれ別個に計上する。 例えば、同一患者が当該期間に同一主傷病で2回入院した場合は1人とする。異なる主傷病で2回入院した場合は2人とする。 また、一回当たりの入院日数を問わず、入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合は1人として計上する。 (令和3年1月1日以降の入院について計上する。) ※2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診断されたものについて計上すること。 ※3 年間外来がん患者延べ数は、当年の新来、再来がん患者及び往診、巡回診療、健康診断、人間ドック等を行い、診療録の作成または記載の追加を行ったがん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。						224	
						225	
						226	
②検査等の実施状況						227	
ア 病理診断の件数(期間:令和3年1月1日～12月31日)						228	
病理診断				21,644	件	229	✓
細胞診断				22,778	件	230	✓
病理組織迅速組織顕微鏡検査				1,366	件	231	✓
						232	
						233	
(7)地域がん診療病院とグループ指定を受けている。						234	✓
グループ指定を受けている場合、その状況について別紙27に記載すること。						235	
						236	
(8)各治療の状況について						237	
手術等の状況						238	
大腸がん・肺がん・胃がん・乳がん・前立腺がん・肝胆膵がんに関する悪性腫瘍の手術件数(令和3年1月1日～12月31日)						239	
大腸がん(C18\$, C19、C20、D01.0、D01.1、D01.2)の手術件数						240	
開腹手術 K7193、K739\$, K740\$				18	件	241	✓
腹腔鏡下手術 K719-3、K740-2\$				141	件	242	✓
内視鏡手術 K721\$, K721-4、K739-2、K739-3				387	件	243	✓
肺がん(C34\$, D02.2)の手術件数						244	
開胸手術 K511\$, K514\$, K518\$				7	件	245	✓
胸腔鏡下手術 K514-2\$				112	件	246	✓
胃がん(C16\$, D00.2)の手術件数						247	
開腹手術 K654-2、K6552、K655-42、K6572				16	件	248	✓
腹腔鏡下手術 K654-3\$, K655-22、K655-52、K657-22				45	件	249	✓
内視鏡手術 粘膜切除術(EMR)K6531				0	件	250	✓
内視鏡手術 粘膜下層剥離術(ESD)K6532				107	件	251	✓
乳がん(C50\$, D05\$)の手術件数						252	
手術 K476\$				262	件	253	✓

	乳癌冷凍凝固摘出術 K475-2	0	件	254	✓
	乳腺腫瘍摘出術(生検) K474\$	18	件	255	✓
	乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術 K474-3\$	132	件	256	✓
	乳房再建術(乳房切除後) 二次的に行うもの K476-32	3	件	257	✓
	前立腺がん(C61)の手術件数			258	
	開腹手術 K843	0	件	259	✓
	腹腔鏡下手術 K843-2、K843-3、K843-4	100	件	260	✓
	肝臓がん(C22\$, D01.5)の手術件数			261	
	開腹手術 K695\$	5	件	262	✓
	腹腔鏡下手術 K695-2\$	29	件	263	✓
	マイクロ波凝固法 K697-2\$	100	件	264	✓
	ラジオ波焼灼療法 K697-3\$	2	件	265	✓
	胆のうがん(C23)の手術件数			266	
	開腹手術 K675\$	5	件	267	✓
	腹腔鏡下手術 K675-2	0	件	268	✓
	胆管がん(C240、C241、C248、C249)の手術件数			269	
	開腹手術 K677、K677-2	25	件	270	✓
	膵臓がん(C250、C251、C252、C253、C254、C257、C258、C259)の手術件数			271	
	開腹手術 K700-2、K702\$, K703\$, K704	32	件	272	✓
	腹腔鏡下手術 K700-3、K702-2\$, K703-2\$	13	件	273	✓
	放射線治療の状況			274	
	※以下、放射線治療件数に関する項目は、必ず放射線治療責任医師の確認を取って記入すること。			275	
	全てのがんを対象としたのべ患者数 (令和3年1月1日～12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)			276	
	体外照射	902	人	277	✓
	定位照射(脳)	33	人	278	✓
	定位照射(体幹部)	50	人	279	✓
	強度変調放射線治療(IMRT)	286	人	280	✓
	粒子線治療(重粒子線、陽子線治療)	0	人	281	✓
	密封小線源治療	86	人	282	✓
	核医学治療	2	人	283	✓
	我が国に多いがんを対象としたのべ患者数 (令和3年1月1日～12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)			284	
	※原発巣に記載してください。			285	
	肺がん	83	人	286	✓
	胃がん	7	人	287	✓
	肝がん	4	人	288	✓
	大腸がん	19	人	289	✓
	胆のう・胆管がん	3	人	290	✓
	膵臓がん	12	人	291	✓
	乳がん	143	人	292	✓
	前立腺がん	113	人	293	✓
	緩和ケアチームに対する新規診療症例の状況(重複可)(令和3年1月1日～12月31日)			294	
	身体症状の緩和を行った症例数	449	人	295	✓
	精神症状の緩和を行った症例数	376	人	296	✓
	社会的苦痛に対する緩和を行った症例数	135	人	297	✓
	自施設で実施したがんの治療に際する妊孕性温存治療の状況(令和3年1月1日～12月31日)			298	
	がんの治療に際する妊孕性温存目的で精子保存を行った患者の人数	12	人	299	✓
	がんの治療に際する妊孕性温存目的で精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数	0	人	300	✓
	がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵、受精卵(胚)、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数	14	人	301	✓
				302	
	成人のがん患者の造血管腫瘍に対する自家移植を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい/いいえ)	303	✓
	成人のがん患者の造血管腫瘍に対する同種移植を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい/いいえ)	304	✓
	成人のがん患者の固形腫瘍に対する自家移植を自施設で行う体制を有している。	いいえ	(はい/いいえ)	305	✓
	小児のがん患者の造血管腫瘍に対する自家移植を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい/いいえ)	306	✓
	小児のがん患者の造血管腫瘍に対する同種移植を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい/いいえ)	307	✓
	小児のがん患者の固形腫瘍に対する自家移植を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい/いいえ)	308	✓
				309	
	成人のがん患者の造血管腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい/いいえ)	310	✓
	小児のがん患者の造血管腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい/いいえ)	311	✓
				312	
	(9)小児がん患者への対応について			313	
	院内学級を開催している(院内学級とは、ここでは院内に設置された小・中学特別支援学級、特別支援学校を指す)。	いいえ	(はい/いいえ)	314	✓
	小児がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院内に整備している。	いいえ	(はい/いいえ)	315	✓
	小児がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院外に整備している。	はい	(はい/いいえ)	316	✓
	小児がん患者と家族が利用できる院外の最寄宿泊施設院から自施設までの移動時間(該当施設がない場合には0を記入)	30	分	317	✓
				318	
	(10)その他の施設について			319	
	集中治療室を設置している。	はい	(はい/いいえ)	320	✓
	緩和ケア病棟を有している。	いいえ	(はい/いいえ)	321	✓
	緩和ケア病棟を有する場合、別紙6に詳細を記載すること。			322	
				323	
	(11)その他			324	
	がん検診後の精密検査を実施している。	はい	(はい/いいえ)	325	✓
	精密検査を実施している場合、令和3年4月1日～令和4年3月31日の期間に実施した精密検査の受診件数を記載してください。			326	
	※一人の患者が同一のがん種について、2回検査を受けた場合には、2件として計上してください。			327	
	※一人の患者が複数のがん種について1回ずつ検査を受けた場合には、それぞれのがん種に1件として計上してください。			328	
	大腸がん	54	件	329	✓
	肺がん	37	件	330	✓
	胃がん	24	件	331	✓
	乳がん	87	件	332	✓
	子宮頸がん	45	件	333	✓
				334	

11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000

様式4(機能別)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名: 慶應義塾大学病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

※様式4(機能別)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について、満たしていない項目とその理由と今後の見通し等について具体的に記載してください。
※通し番号については、様式4(機能別)シートのA列(左端)の番号を記入してください。
※令和4年9月2日以降に、要件の充足状況に変動があった場合には、別途、都道府県を通じて文書で厚生労働省健康局がん・疾病対策課へ届け出てください。

通し番号	令和4年9月1日時点で満たしていない要件 (通し番号を入力すれば、自動入力されます。)	現状の説明	充足見込み時期
例 125	専任の放射線診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	令和4年9月1日時点では専任の医師は配置できていない(兼任で配置している)。	令和5年3月1日段階での整備を行う予定である。
例 180	放射線治療のべ患者数 (基準:年間200人以上)	令和3年〇月〇日～令和3年〇月〇日までの期間、放射線治療機器の入れ替えを行ったため同期間の治療ができなかった。令和3年〇月〇日以降は通常通りの治療を行っている。また、直近1年間の治療実績は〇件であった。	令和4年は基準の治療数を達成できる見込み。
例 189	「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」(平成29年12月1日付け健発1201第2号厚生労働省健康局長通知の別添)に準拠し、当該がん医療圏においてがん診療に携わる医師を対象とした緩和ケアに関する研修を、都道府県と協議の上、開催している。	今般の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、予定していた緩和ケア研修会が中止となっている。	今後〇月にWebでの開催を予定している。
例 216	国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談員基礎研修(1)～(3)を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ1人ずつ配置している。	今般の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、受講を予定していた基礎研修(3)の研修会が中止となっている。	今後〇月に受講予定である。
例 244	国立がん研究センターが実施する研修で中級認定者の認定を受けている、専従の院内がん登録の実務を担う者を1人以上配置している。	今般の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、受講を予定していた中級者認定試験が中止となっている。	今般の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、受講を予定していた中級者認定試験が中止となっていたが、今後〇月に受験予定である。
1 182	当該がん医療圏に居住するがん患者のうち、2割程度について診療実績がある。	同一がん医療圏に複数の地域拠点病院が指定されている。当院は①の項目を全て満たしている。	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			

専門とするがんの診療状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 慶應義塾大学病院

時期・期間: 令和3年1月1日～12月31日

我が国に多いがん、希少がんを含むそれ以外のがんの各がん種において、

■診断および各種・各段階の治療における自施設の専門レベルを専門：◎、対応可：○、他施設へ紹介：△で記入してください。

・専門（◎）：当該がんを特に専門とする医師がおり、周囲の施設から患者を積極的に集めている

・対応可（○）：積極的に患者を集めるわけではないが、自施設で標準的な対応（診断・治療）が可能

・他施設へ紹介（△）：他の施設に紹介することで対応している

■診断あるいはいずれかの治療について、「専門◎」、あるいは「対応可○」と記載した場合は、2020年、2021年の治療開始数（院内がん登録の、症例区分20, 21, 30）を、
国立がん研究センターにおいて計算し提供しますので記入不要です。その際には、より詳細な区分で集計します。

■備考には、手術・放射線・薬物療法以外で行っている治療や特に当該がん種に関する窓口などがあれば、記載して下さい。

■「臨床試験の実績の有無」については、過去5年間の臨床試験の参加実績の有無についてご記入ください（有・無）。

■特に明記されていないところでは、各臓器でリンパ腫を除く各部位のがんについてお答えください。

注

専門＝当該がんを特に専門とする医師がおり、当該がんの患者を積極的に集めているレベル

対応可＝当該がんの標準的な診断/治療が可能

臨床試験＝過去の参加実績であり、現在実施中であるかは問わない。Ⅰ～Ⅲ相いずれでもよい。

	専門◎／対応可○／他施設へ紹介△ 初発例への治療						臨床試験の 実績の有無	治療開始数		担当診療科 (複数記載可)	備考 公開の窓口・特記事項など
成人(15歳以上)	診断 (生検等)	手術	放射線	薬物療法	再発例 への治療	2020年		2021年			
脳腫瘍(リンパ腫以外)	◎	◎	○	◎	◎	有	(良悪性を別に集計表示)		脳神経外科、放射線 治療科		
脳腫瘍(リンパ腫)	◎	◎	○	◎	◎	有			脳神経外科、放射線 治療科		
脊髄腫瘍	◎	◎	○	◎	◎	無			整形外科、放射線治 療科		
眼腫瘍(眼瞼以外)	◎	◎	○	△	○	無			眼科、放射線治療科		
鼻腔・副鼻腔がん	◎	◎	○	◎	◎	無			耳鼻咽喉科、放射線 治療科		
口腔がん	◎	◎	○	◎	◎	無			耳鼻咽喉科、口腔外 科、放射線治療科		
咽頭がん(上・中・下)	◎	◎	○	◎	◎	無	(上・中・下咽頭を別に集計表示)		耳鼻咽喉科、放射線 治療科		
喉頭がん	◎	◎	○	◎	◎	無			耳鼻咽喉科、放射線 治療科		
唾液腺がん	◎	◎	○	◎	◎	無			耳鼻咽喉科、放射線 治療科		
外耳道がん	◎	◎	○	◎	◎	無			耳鼻咽喉科、放射線 治療科		
頭頸部肉腫	◎	◎	○	◎	◎	無			耳鼻咽喉科、放射線 治療科		
甲状腺がん	◎	◎	○	◎	◎	無			耳鼻咽喉科、放射線 治療科		
乳がん	◎	◎	○	◎	◎	有			一般・消化器外科、 放射線治療科		
気管がん	◎	◎	○	○	◎	無			呼吸器内科、呼吸器 外科、放射線治療 科、耳鼻咽喉科		
非小細胞肺がん	◎	◎	○	◎	◎	有			呼吸器内科、呼吸器 外科、放射線治療科		

小細胞肺がん	◎	◎	○	◎	◎	有			呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科	
縦隔腫瘍（胸腺がん、胸腺腫）	◎	◎	○	○	◎	無	（胸腺がん、胸腺腫別に集計表		呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科	
縦隔胚細胞腫瘍	◎	◎	○	○	◎	無	（胸腺がん、胸腺腫別に集計表		呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科	
縦隔腫瘍（それ以外の腫瘍）	◎	◎	○	○	◎	無			呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科	
中皮腫（胸膜）	◎	◎	○	◎	◎	無			呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科	
中皮腫（腹膜）	◎	◎	○	◎	◎	無			消化器内科、一般・消化器外科、放射線治療科	
食道がん	◎	◎	○	◎	◎	有			消化器内科、一般・消化器外科、腫瘍センター、放射線治療科	
胃がん	◎	◎	○	◎	◎	有			消化器内科、一般・消化器外科、腫瘍センター、放射線治療科	
小腸がん	◎	◎	○	◎	◎	有			消化器内科、一般・消化器外科、腫瘍センター、放射線治療科	
大腸がん（結腸・直腸）	◎	◎	○	◎	◎	有			消化器内科、一般・消化器外科、腫瘍センター、放射線治療科	
肛門・肛門管がん	◎	◎	○	◎	◎	有			消化器内科、一般・消化器外科、腫瘍センター、放射線治療科	
消化管間質性腫瘍（GIST）	◎	◎	○	◎	◎	有			消化器内科、一般・消化器外科、腫瘍センター、放射線治療科	
消化管の神経内分泌腫瘍（NET／NEC）	◎	◎	○	◎	◎	有	（NET,NECは別に集計表示）		消化器内科、一般・消化器外科、腫瘍センター、放射線治療科	
肝臓がん	◎	◎	○	◎	◎	有			消化器内科、一般・消化器外科、腫瘍センター、放射線治療科	
胆のう・胆管がん	◎	◎	○	◎	◎	有	（肝内、肝外を別に集計表示）		消化器内科、一般・消化器外科、腫瘍センター、放射線治療科	
すい臓がん（NET/NEC以外）	◎	◎	○	◎	◎	有			消化器内科、一般・消化器外科、腫瘍センター、放射線治療科	
すい臓の神経内分泌腫瘍（NET／NEC）	◎	◎	○	◎	◎	有	（NET,NECは別に集計表示）		消化器内科、一般・消化器外科、腫瘍センター、放射線治療科	
腹膜偽粘液腫（他のがんの腹膜播種を除く）	◎	○	○	◎	◎	無			消化器内科、一般・消化器外科、腫瘍センター、放射線治療科	
デスモイド腫瘍	◎	◎	○	◎	◎	無			消化器内科、一般・消化器外科、放射線治療科	
後腹膜肉腫	◎	◎	○	◎	◎	有			消化器内科、一般・消化器外科、放射線治療科	
腎がん	◎	◎	○	◎	◎	有			泌尿器科、放射線治療科	
褐色細胞腫・傍神経節腫瘍（頭頸部以外）	○	○	○	○	○	無			泌尿器科、内分泌代謝内科、腫瘍センター、放射線治療科	
副腎皮質がん	○	○	○	○	○	無			泌尿器科、腫瘍センター、放射線治療科	
腎盂尿管がん・膀胱がん	◎	◎	○	◎	◎	有	（腎盂・尿管・膀胱は別に集計表		泌尿器科、腫瘍センター、放射線治療科	

精巣腫瘍	○	○	○	○	○	無			泌尿器科、腫瘍センター、放射線治療科	
前立腺がん	◎	◎	○	◎	◎	有			泌尿器科、放射線治療科、整形外科	
子宮頸がん(上皮性)	◎	◎	○	◎	◎	有			婦人科、放射線治療科	
子宮体がん(上皮性)	◎	◎	○	◎	◎	有			婦人科、放射線治療科	
子宮肉腫	◎	◎	○	◎	◎	有			婦人科、放射線治療科	
卵巣がん、卵管がん、腹膜がん(上皮性)	◎	◎	○	◎	◎	有			婦人科、放射線治療科	
卵巣胚細胞腫瘍	◎	◎	○	◎	◎	無			婦人科、放射線治療科	
外陰がん	◎	◎	○	◎	◎	無			皮膚科、婦人科、放射線治療科	
四肢・表在体幹の悪性軟部腫瘍	◎	◎	○	◎	◎	有			整形外科、皮膚科、放射線治療科	肉腫・メラノーマセンター
四肢・表在体幹の悪性骨腫瘍	◎	◎	○	◎	◎	有			整形外科、放射線治療科	
皮膚の悪性黒色腫	◎	◎	○	◎	◎	◎			皮膚科、放射線治療科	肉腫・メラノーマセンター
皮膚がん(悪性黒色腫以外)	◎	◎	○	◎	◎	◎			皮膚科、放射線治療科	
悪性リンパ腫	◎	◎	○	◎	◎	有			血液内科、皮膚科、放射線治療科	
急性白血病(骨髄性、リンパ性)	◎		○	◎	◎	有			血液内科、放射線治療科	
慢性白血病(骨髄性、リンパ性)	◎		○	◎	◎	有			血液内科、放射線治療科	
多発性骨髄腫	◎		○	◎	◎	有			血液内科、放射線治療科	
原発不明がん	◎	◎	○	◎	◎	無			耳鼻咽喉科、放射線治療科	
専門◎／対応可○／他施設へ紹介△							治療開始数		担当診療科 (複数記載可)	備考 公開の窓口・特記事項など
小児(15歳未満)	診断 (生検等)	初発例への治療				臨床試験の 実績の有無	2020年	2021年		
		手術	放射線	薬物療法	再発例 への治療					
小児脳腫瘍	◎	◎	○	◎	◎	有			脳神経外科、小児科、放射線治療科	
小児眼腫瘍	◎	◎	○	○	○	無			眼科、小児科、放射線治療科	
小児悪性骨腫瘍	◎	◎	○	◎	◎	有			小児科、整形外科、放射線治療科	
小児造血器腫瘍	◎		○	◎	◎	有			小児科、放射線治療科	
小児固形腫瘍(脳・目・骨以外)	◎	◎	○	◎	◎	有			泌尿器科、放射線治療科	

がん登録でコードがなく集計不可

我が国に多いがんに対して、自施設で対応しない診療内容

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
なし

病院名: 慶應義塾大学病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

我が国に多いがんに対して、自施設で対応しない診療内容があれば、下の表に状況を記載してください。

我が国に多いがん	自施設で対応しない診療内容について、該当するがん種と治療法の組み合わせに"○"を入力してください。			自施設で対応していない診療内容についての連携先 (施設名・診療内容)
	手術療法	薬物療法	放射線療法	
(例)膵臓がん	○			手術を要する膵臓がん患者は、連携する××病院に紹介している。 手術後の薬物療法については、自施設で対応している。
大腸がん				
肺がん				
胃がん				
乳がん				
前立腺がん				
肝がん				
胆のう・胆管がん				
膵臓がん				

カンファレンスについて

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません

記載の有無

あり

病院名： 慶應義塾大学病院

時期・期間： 令和4年9月1日時点

※この別紙は任意記載です。

整備指針Ⅱの2の(1)の①のウ及びⅥの2の(1)の①のオに定めるカンファレンスのうち、iii及びivについて記載してください。

iiiのカンファレンスについて、検討している症例・テーマ・参加する職種等について自由記載してください。

定期的な開催が現状難しい場合には、その理由を記載してください。

骨転移、希少がん、原発不明がん等の症例を検討し、診断、治療(手術、薬物療法、放射線治療)、リハビリなどを多診療科(原発診療科、整形外科、リハビリテーション科、緩和ケアセンター、放射線治療科、歯科・口腔外科など)で横断的に、さらには看護師、薬剤師、療法士などの医療スタッフも交えて多職種で協議している。

ivのカンファレンスについて、検討している症例・テーマ・参加する職種等について自由記載してください。

定期的な開催が現状難しい場合には、その理由を記載してください。

各疾患クラスター別に患者背景や社会的な問題を解決するために、医師および看護師、ソーシャルワーカー、薬剤師等の多職種によるミーティングを行っている。事案ごとに行っているため定期的な開催ではない。
一方で横断的な臨床倫理コンサルテーションチームは、月一回定例会を行っており、検討事例が発生した際に、チームメンバーのほか、主治医チーム、看護師等の多職種を招集しカンファレンスを開催している。急を要するケースは即座に対応できるような運用をしている。

緩和ケア外来の状況

記載の有無
あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：慶應義塾大学病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

1	緩和ケア外来が設定されている（はい／いいえ）				はい
2	緩和ケア外来の名称		緩和ケア外来		
3	担当診療科名		緩和ケアセンター		
4	緩和ケア外来の頻度（〇回／週）		5回／週		
5	主な診療内容・特色・アピールポイント		がんに伴う痛み・しびれ・息苦しさなどの身体症状や不眠・不安・抑うつなどの精神症状の診察のほか、療養環境調整や家族へのサポートも行っています。		
6	緩和ケア外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し	慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター		
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス	https://www.hosp.keio.ac.jp/annai/shinryo/palliative-care/		
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい／いいえ）				はい
8	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい／いいえ）				はい
	窓口の名称		緩和ケア外来		
	電話番号		03-3353-1211	(内線)	
9	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい／いいえ）				はい
	窓口の名称		緩和ケア外来		
	電話番号		03-3353-1211	(内線)	
	祝祭日、年末年始以外の休み（創立記念日など）		日曜日 ・ 第一、第三土曜日		
10	緩和ケア外来の状況 期間：令和3年1月1日～12月31日		以下については、自施設でがん診療を受けている患者について記載してください。		
			緩和ケア外来患者の年間新規診療患者数		84人
			緩和ケア外来患者の年間受診患者のべ数		959人
			以下については、緩和ケア外来受診まで自施設でがん診療を受けていなかった患者について記載してください。		
			地域の医療機関からの年間新規紹介患者数		1人
地域の医療機関からの年間受診患者のべ数		6人			

緩和ケア病棟の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 慶應義塾大学病院

時期・期間： 令和4年9月1日時点

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している	病棟がありません			
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理				
3	緩和ケア病棟の形式				
4	緩和ケア病棟の病床数		床		
5	緩和ケア病棟に入院した患者の申し込みから入院するまでの平均待機期間		日		
	緩和ケア病棟の年間新入院患者数(令和3年1月1日～12月31日)		人		
	緩和ケア病棟の年間死亡患者数(令和3年1月1日～12月31日)		人		
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し			
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	アドレス			
7	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数(人) ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	(例) 医師	2	(例) 精神保健福祉士	1
8	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)				
	窓口の名称				
	電話番号		(内線)		
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			
		アドレス			
9	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)				
	窓口の名称				
	電話番号		(内線)		
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			
		アドレス			
10	緩和ケア病棟の設備	例：家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム(食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある)、特殊入浴室			
11	訪問看護ケアの有無	例：自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など			

地域緩和ケア連携体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 慶應義塾大学病院

時点： 令和4年9月1日時点

【緩和ケアに関する地域連携を推進するために、地域の施設が開催する多職種連携カンファレンスに参加した年間回数】

令和3年1月1日～12月31日 自施設が主催したもの（※共催を含む）

2回

地域内の他施設が主催したもの

8回

注1）多職種連携カンファレンスとは「地域全体の医療を推進するため地域医療を支える多施設かつ多職種の連携強化と顔の見える関係づくりを目的として、緩和ケアに関わる多職種の医療・介護従事者等が一堂に会する場」とする。

注2）患者の退院支援カンファレンス等、患者個人の情報共有のために開催したカンファレンスは含まない。

【緊急緩和ケア病棟について（都道府県がん診療連携拠点病院のみ）】

・緊急緩和ケア病床数

5床

・緊急緩和ケア病床の入院患者数（令和3年1月1日～12月31日）

115人

【神経ブロックについて】

・難治性疼痛に対する神経ブロックについて、自施設で実施している。

はい

・神経ブロックの提供実施（令和3年1月1日～12月31日）

0人

【自施設で実施できない場合には、連携している医療機関名等、神経ブロックの提供における連携協力体制を記入】

医療圏内の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアが提供できる診療所などのマップやリストを記載してください。緩和ケアセンターを有する病院は、緊急入院体制の整備にあたり、連携協力を行っている在宅療養支援診療所等のリストについても記載すること。※個人名やPHSの番号が記載されていないことをご確認ください。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙7を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

あり

（あり／なし）

ファイル形式

その他

（ワード／エクセル／パワーポイント／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

PDF

【医療圏内の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアが提供できる診療所などのマップやリスト】

別添PDFファイルあり

【緊急入院体制の整備にあたり、連携協力を行っている在宅療養支援診療所等のリスト】

別添PDFファイルあり

緩和ケアチームのメンバー

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 慶應義塾大学病院

期間： 令和4年9月1日時点

緩和ケアチームのメンバーについて記載してください。

- 注1) 様式4のⅡの2の(2)診療従事者の回答と齟齬がないように記載してください。
- 注2) 研修医は除いてください。
- 注3) 常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

緩和ケアチームの医師について

	役割	人数	診療科の内訳
例	身体症状の緩和に携わる医師	3	麻酔科2名、消化器外科1名
1	身体症状の緩和に携わる医師	3	緩和ケアセンター(麻酔科1名、外科1名、内科1名) 3名
2	精神症状の緩和に携わる医師	1	緩和ケアセンター(精神・神経科)1名

医師以外の診療従事者について

	職種	常勤 /非常勤	専門資格(取得している場合)
例	管理栄養士	常勤	がん病態栄養専門管理栄養士
1	看護師	常勤	がん性疼痛看護認定看護師
2	看護師	常勤	緩和ケア認定看護師
3	看護師	常勤	
4	薬剤師	常勤	緩和薬物療法認定薬剤師
5	薬剤師	常勤	緩和薬物療法認定薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師
6	薬剤師	常勤	緩和薬物療法認定薬剤師
7	相談支援に携わる者	常勤	社会福祉士
8	相談支援に携わる者	常勤	社会福祉士、精神保健福祉士、認定がん専門相談員
9	管理栄養士	常勤	
10	公認心理師	常勤	公認心理師
11			
12			
13			
14			

患者及び家族が利用可能なインターネット環境

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：慶應義塾大学病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

1	患者が利用できるインターネット環境がある。	はい	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。	はい	(はい／いいえ)
2	患者の家族が利用できるインターネット環境がある。	はい	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。	はい	(はい／いいえ)
3	患者・家族がインターネットを利用できる場所について		
	ロビーで利用できる。	はい	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。	はい	(はい／いいえ)
	外来で利用できる。	はい	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。	はい	(はい／いいえ)
	個室でのみ利用できる。	いいえ	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。(※1)	はい	(はい／いいえ)
	個室又は大部屋に関わらず概ね全ての病室において利用できる。(※2)	はい	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。	はい	(はい／いいえ)
4	インターネット環境が医療機器等に干渉しないよう、各種のガイドラインを参照している。	はい	(はい／いいえ)
	4が”はい”の場合に、参考としたガイドライン名を以下の欄に記入してください。		
医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き			

※1 インターネット利用の有無で入院費が変動しない場合は”はい”を選択してください。

※2 集中治療室等の特定の病室を除く多数の病室において利用できる場合は「はい」を選択してください。

がん患者の特性に応じた支援

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：慶應義塾大学病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

1	自施設でAYA世代のがん患者の支援を行っている	はい	(はい／いいえ)
	「はい」の場合は、自施設で行うことができる支援の内容を記載してください。		
	(例) AYA世代のがん患者の就労支援として月に●回の頻度で社労士の訪問を受けている。		
	AYA世代がん患者に向け、服薬指導や就学・就労支援を行っている。また、当院の特色として、がんの親をもつ子どもサポートチームがあり、子育て中のがん患者さんと子どもの支援を行っている。		
2	自施設でAYA世代のがん患者に関する支援が行えない場合は、患者を紹介する等、AYA世代の支援で連携する施設名を記載してください。		
	多職種からなるAYA支援チームを設置している。	はい	(はい／いいえ)
	「はい」の場合は、AYA支援チーム構成員の職種を記載してください。		
3	医師、看護師、薬剤師、放射線技師、ソーシャルワーカー、チャイルドライフスペシャリスト		
	自施設で、がん・生殖医療に関する意思決定支援を行うことができる診療従事者の育成・配置を行っている。	はい	(はい／いいえ)
	「はい」の場合は、意思決定支援を行うことができる診療従事者の育成に関する取組状況を記載してください。		
4	生殖医療や看護について専門的知識を有する、生殖医療コーディネーターや不妊症看護認定看護師、不妊カウンセラー、がん相談員をがん・生殖医療に関する意思決定支援に対応できるように院外の研修等を活用し育成した。育成した4名の助産師・看護師を配置している。		
	がん患者の妊孕性の温存に関する支援について、自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。		
	がん患者が妊孕性温存の選択決定ができるために、必要な知識の提供や拡充・整理を支援している。温存を選択した患者に対しては温存内容や方法に合わせて、自己注射指導や採卵、採精が確実・安全に実施できるように説明や指導を行っている。温存をしないどちらの場合でも、がん治療後の生殖についての相談の場があることを紹介している。		
5	がん患者の就学に関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。		
	当院では、新宿区立新宿養護学校と連携し、おおむね1か月以上の長期にわたって入院している小・中学生を対象として教科の指導、自立活動の指導、校外学習などのサポートを行っている。		
	がん患者の就業に関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。		
6	就労両立支援コーディネーターの研修を修了したソーシャルワーカーや看護師を配置し、仕事と治療の両立に関する相談に対応している。		
	がん患者のアピアランスケアに関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。		
	アピアランスケアに関する資料を準備し、必要時情報提供できる体制を整えている。院内セミナーも開催している。女性床および外来部門にはアピアランスルームを設置し、ウィッグや化粧品、マニキュア、補正下着など外見の変化に対応する物品を備え、患者が自由に手に取り試すことができる整備を整えている。また、各診療科とCN、CNSが連携を図りながら、患者のニーズに合わせた支援を行っている。小児領域やがんの親を持つ子どもに関しては、チャイルドライフスペシャリストもリソースとして横断的な活動をしている。		
7	高齢のがん患者に関して、自施設で実施している機能評価体制について、記載してください。		
	ADL、IADLなどの身体機能に加え、栄養状態や認知機能、社会支援、意思決定能力などについて、診療科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカーなどが多職種で連携し、多角的な視点から評価する体制が構築されている。		

相談支援センターの相談件数と相談支援内容

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

病院名： 慶應義塾大学病院

期間：令和3年1月1日～12月31日

※「自施設の患者・家族」とは、貴院で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院で診療を受けた患者・家族のことをさしています。
「他施設の患者・家族」とは、貴院以外の医療機関で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院以外の医療機関で診療を受けていた患者・家族のことをさしています。

●年間ののべ相談件数	6,429	件
上記1件あたりの平均対応時間 平均	29	分
●年間の自施設の新規患者の相談件数	1,461	件

1. 相談件数(新規相談件数に限る)

	相談者	計
1	自施設の患者・家族	2,161
2	1以外の患者・家族・地域住民等	162
3	他の医療機関等の職員	9
	合計	2,332

●以下の内容についてそれぞれ相談件数を記載してください。

※1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して構いません。

なお、項目の番号については、厚生労働省研究費補助金「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」が作成した「相談記入シート」を参考にしています。

https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/support/registration_sheet.html

	相談内容	件数	相談内容	件数
	01.がんの治療	861	17-1.社会生活(仕事・就労)	349
	02.がんの検査	17	17-2.社会生活(学業)	1
	03.症状・副作用・後遺症	518	18.医療費・生活費・社会保障制度	447
	03-01.妊孕性・生殖機能	29	19.補完・代替医療	3
	03-01.アピアランス	102	20.生きがい・価値観	36
	04.セカンドオピニオン(一般)	11	21.不安・精神的苦痛	321
	05.セカンドオピニオン(受け入れ)	38	22.告知	23
	06.セカンドオピニオン(他へ紹介)	11	23.医療者との関係・コミュニケーション	99
	07.治療実績	0	24.患者-家族間の関係・コミュニケーション	109
	08.臨床試験・先進医療	20	25.友人・知人・職場との関係・コミュニケーション	6
	09.受診方法	272	26.患者会・家族会(ピア情報)	17
	10.転院	1,145	88.不明	4
	11.医療機関の紹介	54	99.その他(下段に自由記載してください)	214
	12.がん予防・検診	2	がん相談支援センターの利用方法	7
	13.在宅医療	427	コロナが怖い、受診を控えたい	4
	14.ホスピス・緩和ケア	1,364	自殺予防・相談	10
	15.食事・服薬・入浴・運動・外出など	140	グリーフケア	8
	16.介護・看護・養育	190	他界後の手続き・準備に関すること	3

がん相談支援センターの問い合わせ窓口・がん患者カウンセリングの設定

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名： 慶應義塾大学病院

時期・期間： 令和4年9月1日時点

1	相談支援センターの名称		がん相談支援センター						
2	問い合わせ先電話番号		03-5363-3285	(内線)					
3	■対面相談の実施（実施/未実施）	実施							
	予約の要否（必要/不要）	必要							
	■電話相談の実施（実施/未実施）	実施							
	電話番号	03-5363-3285					(内線)		
	予約の要否（必要/不要）	不要							
4	■FAX相談の実施（実施/未実施）	未実施							
	FAX番号								
	■電子メール相談の実施（実施/未実施）	未実施							
	メールアドレス ※個人のメールアドレスは記載しないでください								

以下は、都道府県がん診療連携拠点病院の場合のみ記入してください。

1	がん患者カウンセリングが設定されている（はい/いいえ）					
2	外来の名称					
3	主な内容・特色					
4	外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し				
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス				
5	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）					
	窓口の名称					
	電話番号		(内線)			
6	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）					
	窓口の名称					
	電話番号		(内線)			

がん相談支援センターの体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 慶應義塾大学病院

時期・期間： 令和4年9月1日時点

注1) 様式4の回答と齟齬がないようにすること。
注2) 常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。
注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が、「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいう。

■がん対策研究所による「相談支援センター相談員研修・基礎研修」について

対象者	人数
がん対策情報センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)～(3)の修了者数	10
うち相談支援に携わる者の専任の人数(専任かつ専従でない者)	1
うち相談支援に携わる者の専従の人数	1
がん対策情報センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)および(2)のみの修了者数	8
うち相談支援に携わる者の専任の人数(専任かつ専従でない者)	0
うち相談支援に携わる者の専従の人数	0
がん対策情報センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)のみの修了者数	0
うち相談支援に携わる者の専任の人数(専任かつ専従でない者)	0
うち相談支援に携わる者の専従の人数	0
転院や退院調整の業務担当とは別に、がん相談に専従している相談支援センターの相談員数	1

■定期的な知識の更新のための研修等

対象者	人数
①がん相談支援センターに配置されている相談支援に携わる者のうち、がん対策研究所によるがん相談支援センター相談員継続研修を受講した人数	3
②相談支援に携わる者のうち、上記以外の研修を受講した人数	19
②の具体例	<外部>東京都がん相談員研修会 クローバー研修、一般社団法人日本がん相談研究会主催の研修(①基礎編②応用編)、日本緩和医療学会 教育セミナー、緩和ケアチームのための小児緩和ケア教育研修、小児がん緩和ケアチーム研修、がんの薬物療法研修会、東京都主催 地域相談支援フォーラムIN東京・神奈川・埼玉・千葉「認知症がん患者の意思決定を支える(自立を支える視点から)」、Tokyo AYA Can ネットワーク研修、東京都区西部緩和ケア連携推進事業 相談支援部会主催の研修、ジャパンキャンサーフォーラム<院内>AYA世代がん患者への支援、AYA世代がん患者への支援つなげよう支援の輪！がん生殖！、がんゲノム医療講座

■相談支援センターの体制について

※以下の1～6に該当する人数は必ず記載すること。その他の体制についてはそれぞれ記載すること。
※両立支援コーディネーター研修の受講は指定要件ではありません。事業の参考とさせていただきます。
※専従・専任・その他については、当該の相談支援に携わる者が8割以上当該業務に従事している場合には専従、5割以上8割未満の場合には専任、5割未満の場合にはその他としてください。

	職種	専従/専任/その他	人数	うち常勤の人数	両立支援コーディネーター研修を受講した人数
例	看護師	専従	3	2	3
例	社会福祉士	専任			
例	その他	その他			
1	社会福祉士	専従	1	1	1
2	社会福祉士	専任	1	1	1
3	社会福祉士	その他	4	4	3
4	精神保健福祉士	専従	0	0	0
5	精神保健福祉士	専任	0	0	0
6	精神保健福祉士	その他	1	1	0
7	看護師	専従	0	0	0
8	看護師	専任	0	0	0
9	看護師	その他	12	12	5
10	社会福祉士				
11	精神保健福祉士				
12	看護師				
13					
14					
15					
16					
17					
18					

■相談支援センターの体制の「職種」で「その他」を選んだ場合、下記に詳細を記入してください。

	職種
例	ピアサポーター(上記リスト9番)
例	社会保険労務士(上記リスト12番)
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

■がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制

(必ずしも具体的な相談を伴わない、場所等の確認も含む)

がん患者及びその家族ががん相談支援センターを訪問できる体制に関する、具体的な取り組み状況を記入してください。

診療科受付、診察室にがん相談支援センター紹介カードを設置、医師から紹介できる体制は整えられている。また、デジタルサイネージ、院内広報誌等で、がん相談支援センターについて、情報提供し、患者さんのペースで相談にすることができる環境を整備している。しかし今回の新整備指針に即した対応には周知方法の検討が必要。

■がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制

がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制に関する、具体的な取り組み状況を記入してください。

患者サロンアンケートにて、ご意見やご要望等記載できる項目を設け、フィードバックを得られる体制を整えている。

院内外のがん患者等からの相談に対応するための連携協力体制の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

病院名： 慶應義塾大学病院

時期・期間： 令和4年9月1日時点

●就労に関する連携協力体制

①専門家による相談会の開催回数(令和3年1月1日～12月31日)

②専門家の職種(例：社労士、キャリアコンサルタント等を全て記載)

その他	
必要に応じて、ハローワーク(就職支援ナビゲーター)、社会保険労務士、ファイナンシャルプランナーと連携をしている。	(複数回答可)

●アピアランスケアに関する連携協力体制

アピアランスに関する相談を院内で対応している

院内でアピアランスケアに関する相談・支援を行っている部署

相談・支援の件数(がん相談支援センターでの件数は除く)

はい	(はい/いいえ)
がん相談支援センター、病棟、外来	(複数回答可)
95	

●がん患者の妊よう性温存に関する連携協力体制

①相談に対応している部署(例：がん相談支援センター、化学療法室等)

①-1意思決定支援に関わる医療従事者による相談会を院内で実施している

①-2意思決定支援に関わる医療従事者による相談を院外の施設に依頼している

②がん患者の妊よう性温存のための生殖医療を専門とする施設へ紹介した患者の人数

③自治体のがん・生殖医療ネットワークを通じて、生殖医療を専門とする施設に紹介している

一次対応は主科とがん相談支援センターで行い、専門的な部分はリプロダクションセンターと連携して対応している。	(複数回答可)
はい	(はい/いいえ)
いいえ	(はい/いいえ)
11	(期間：令和3年1月1日～12月31日)
はい	(はい/いいえ)

③-1紹介先施設名(複数回答可)

	(複数回答可)
--	---------

④他の自治体のがん・生殖医療ネットワークを通じて、生殖医療を専門とする施設に紹介している

はい	(はい/いいえ)
----	----------

④-1紹介先施設名(複数回答可)

	(複数回答可)
--	---------

⑤意思決定支援に関わる人材育成を実施している(「いいえ」の場合は⑤-1、⑤-2は「いいえ」を記入ください。)

⑤-1研修会を院内で実施している

⑤-2学会等の研修会への参加を励行している

はい	(はい/いいえ)
はい	(はい/いいえ)
はい	(はい/いいえ)

●がん患者の自殺リスクに対する体制

院内で自殺リスクに対する研修を開いている。

はい	(はい/いいえ)
----	----------

●患者サロン等の開催状況(令和3年1月1日～12月31日)

①患者サロンの開催件数

②患者会の開催件数

②-1患者会のうち、オンラインで開催した件数

③サポートグループが主催した研修の開催件数

2	
2	
2	
10	

●患者団体との連携協力体制

※患者団体の参加対象者が特定の疾患に限られていない場合には、「**すべてのがん**」と記載してください。

※「紹介の可否」には、患者さんや家族から、その団体について問い合わせがあった際、具体的な紹介ができるかどうかについて記載してください。

	連携協力しているがん患者団体		具体的な連携協力の内容	紹介の可否
	団体名	参加対象者の疾患名		
例	〇〇〇〇〇会	造血器腫瘍	患者会と共同で、月1回、患者サロンを開催している。	可
例	〇〇〇〇〇会	乳がん	相談支援センターで、週1回、2名ずつ、ピアサポーターとして活動してもらっている。	可
例	〇〇〇〇〇会	すべてのがん	年4回開催している市民講演会の開催への協力、また、演者として参加してもらっている。	不可
1	銀鈴会	喉頭がん	喉頭摘出術患者の失声に対する食道発声訓練を退院後に患者会で(銀鈴会)で実施できるように連携している。 適宜連絡により、情報の共有・連携体制の維持を図っている。	可
2	日本脳腫瘍ネットワーク(JBTA)	脳腫瘍	年に1～2回程度、患者会と共同で、最新の治療法や研究成果のトピックスの勉強会を開催。同時に、個別相談会も実施	可
3	キャンサーネットジャパン(CNJ)	すべてのがん	年に一回の市民公開講座にボランティアで参加し講演を行っている。 CNJ制作のパンフレット等資料を配置したコーナーを設け、情報提供に幅広く対応している。	可
4	NPO法人希望の会	胃がん	がん治療での不安、疑問に答え、病氣、治療への理解を深めてもらうため、共催で、数か月ごとに市民講座を実施している。また希望の会で作成した冊子を院内外のがん患者さん・家族に資料配布している。	可
5	CSRプロジェクト	すべてのがん	働く世代のがん体験者、家族が遭遇する「心、身体、社会・経済」の痛みを緩和するために、電話相談や夜のラウンジ、暮らしのシンポジウムなどを行っている団体。 院内外のがん患者さん・家族に資料配布している。	可
6	9S会	血液腫瘍	診断に関する最新の情報提供と患者相互の経験の共有の場として、患者側、医療者再度連携して定期的に開催している。AYA世代を対象としたSTEPの会、家族を対象としたほっとの会も実施している。(紹介の可否については、当院で同種移植を受けた患者が対象)	可
7	一般社団法人キャンサーフィットネス講演会、運動教室	すべてのがん	運動を通して、がん患者、がんサバイバー(がん体験者)を支援する団体。 同団体主催の講演会での講演、連携体制の構築、情報共有を行っている。	可
8	公益財団法人がんの子どもを守る会	小児がん	療養援助事業などの制度利用にむけて、患者団体との協働、患者・家族との相談・調整を行う	可
9	認定NPO法人ゴールドリボンネットワーク	小児がん	GRN小児がん交通費等補助金制度利用にむけて、患者団体との協働、患者・家族との相談・調整を行う	可
10	特定非営利活動法人全国骨髓バンク推進連絡協議会	造血細胞移植患者	佐藤さち子記念「造血細胞移植患者支援基金」利用にむけて、患者団体との協働、患者・家族との相談調整を行う	可
11	さくらの会	小児がん	定期的な患者間の交流会の開催をサポートする。	可
12				

がんの診療に関連した専門外来の問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 慶應義塾大学病院

時期・期間： 令和4年9月1日時点

※ がん診療に関連した専門外来の「対象となる疾患名」の項目は、以下の表の疾患名を用いて記載してください。
表の中に、該当する病名がない場合は、その病名を直接記載してください。
また、すべてのがん種が対象となる場合は、「**すべてのがん**」と記載してください。
※ がん患者カウンセリングについては、**別紙12の下段**に記載してください。

頭部／頸部	消化管	泌尿器	女性	その他
脳腫瘍 脊髄腫瘍 眼・眼窩腫瘍 口腔がん 咽頭がん・喉頭がん甲状腺がん	食道がん 胃がん 小腸がん 大腸がん GIST	腎がん 尿管がん 膀胱がん 副腎腫瘍	子宮頸がん・子宮体がん 卵巣がん その他の女性生殖器がん	後腹膜・腹膜腫瘍 性腺外胚細胞腫瘍 原発不明がん
胸部	肝臓 ／胆道 ／膵臓	男性	皮膚／骨と軟部組織	小児
肺がん 乳がん 縦隔腫瘍 中皮腫	肝がん 胆道がん 膵がん	前立腺がん 精巣がん その他の男性 生殖器がん	皮膚腫瘍 悪性骨軟部腫瘍 血液・リンパ 造血器腫瘍	小児脳腫瘍 小児の眼・眼窩腫瘍 小児悪性骨軟部腫瘍 その他の小児固形腫瘍 小児造血器腫瘍

1. 【 ストーマ外来 】の問い合わせ窓口

1	ストーマ外来が設定されている（はい/いいえ）	はい
2	上記外来の名称	ストーマ外来
3	対象となるストーマの種類	コロストーマとウロストーマ
4	対象となる疾患名	大腸がん・小腸がん・膀胱がん・子宮がん など
5	主な診療内容・特色	ストーマのセルフケア指導、装具の選択、合併症への対応、生活指導
6	ストーマ外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し アドレス
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）	はい
8	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）	はい
	窓口の名称	医療連携推進部 療養支援担当
	電話番号	03-3353-1211 (内線)
9	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）	はい
	窓口の名称	医療連携推進部 療養支援担当
	電話番号	03-3353-1211 (内線)

2. 【 リンパ浮腫外来 】の問い合わせ窓口

1	リンパ浮腫外来が設定されている	はい	(はい/いいえ)	※リンパ浮腫の研修修了者とは、厚生労働省後援のがんのリハビリテーション研修におけるリンパ浮腫研修運営委員会が策定した、「専門的なリンパ浮腫研究に関する教育要綱」にそった研修（講義45時間以上）を修了した医療従事者のことをいう。
2	研修を修了した担当者が配置されている※	はい	(はい/いいえ)	
3	上記外来の名称	リンパ浮腫外来		

4	対象となる疾患名		一次性リンパ浮腫(原因不明)、二次性リンパ浮腫(乳がん術後、婦人科がん術後、泌尿器科系がん術後、悪性黒色腫術後等)			
5	リンパ浮腫の診療担当科		リハビリテーション科・形成外科・一般消化器外科(血管班)			
6	リンパ浮腫の入院治療に対応している		対応している	(対応している/対応していない)		
7	主な診療内容・特色		リンパ浮腫に対して包括的な診断・治療を実施			
8	リンパ浮腫外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し	KOMPAS リンパ浮腫のリハビリテーション			
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス	https://kompas.hosp.keio.ac.jp/contents/000161.html			
9	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている(はい/いいえ)					はい
10	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)					はい
	窓口の名称		リハビリテーション科			
	電話番号		03-3353-1211	(内線)		
11	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)					はい
	窓口の名称		外来予約窓口			
	電話番号		03-3353-1257	(内線)		

3. 【禁煙外来】の問い合わせ窓口

1	禁煙外来が設定されている(はい/いいえ)					はい
2	上記外来の名称		禁煙外来			
3	主な診療内容・特色		禁煙希望、あるいは治療上禁煙が必要な患者さんに対する治療(当院通院中の患者さん)			
4	禁煙外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し				
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス				
5	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている(はい/いいえ)					はい
6	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)					はい
	窓口の名称		外来予約窓口			
	電話番号		03-3353-1257	(内線)		
7	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)					はい
	窓口の名称		外来予約窓口			
	電話番号		03-3353-1257	(内線)		

4. 【アスベスト外来】の問い合わせ窓口

1	アスベスト外来が設定されている(はい/いいえ)					いいえ
2	上記外来の名称					
3	主な診療内容・特色					
4	アスベスト外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し				
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス				
5	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている(はい/いいえ)					
6	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)					
	窓口の名称					

0	電話番号		(内線)			
7	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）					
	窓口の名称					
	電話番号		(内線)			

5. 遺伝性腫瘍に関連した専門外来の問い合わせ窓口

1	遺伝性腫瘍外来が設定されている（はい/いいえ）						はい
2	上記外来の名称		臨床遺伝学センター外来				
3	主な診療内容・特色		家族内にがんの多い方の相談と必要に応じて遺伝検査の実施				
4	遺伝性腫瘍外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	慶應義塾大学病院 臨床遺伝学センター外来				
		アドレス	https://www.hosp.keio.ac.jp/annai/shinryo/genetics/				
5	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）						はい
6	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）						はい
	窓口の名称		外来予約窓口				
	電話番号		03-3353-1257	(内線)			
7	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）						はい
	窓口の名称		外来予約窓口				
	電話番号		03-3353-1257	(内線)			

6. その他のがん診療に関連した専門外来の問い合わせ窓口

- 1) がん専門初診 外来の問い合わせ窓口 ※枠内に専門外来の名称を記載してください

1	対象となる疾患名		すべてのがん				
2	主な診療内容・特色		従来のがん治療では、がん患者さんの診療において、どの診療科を受診すべきかわかりづらい、いろいろな診療科をまわらなければならない、検査や治療方針の決定に時間がかかる等の問題点があります。当院ではこれらの問題点を解決するため、がんの迅速かつ正確な診断、最適な治療計画の策定、診療科の枠を超えた包括的ながん医療を提供することを目的として、腫瘍センター「がん専門初診外来」を開設しています。				
3	上記の外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	慶應義塾大学病院 腫瘍センター				
		アドレス	https://www.hosp.keio.ac.jp/annai/shinryo/cancer/				
4	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）						はい
5	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）						はい
	窓口の名称		がん専門初診外来予約窓口				
	電話番号		03-5363-3020	(内線)			
6	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）						はい
	窓口の名称		外来予約窓口				
	電話番号		03-3353-1257	(内線)			

- 2) がん遺伝子外来 外来の問い合わせ窓口 ※枠内に専門外来の名称を記載してください

1	対象となる疾患名		すべてのがん(血液・リンパ系腫瘍を除く)			
2	主な診療内容・特色		腫瘍センターでは、2017年11月より、一人ひとりのがん患者さんに最も適した治療薬の情報を提供するために「がん遺伝子外来」を開設し、受託解析にて、複数のがん遺伝子を調べる遺伝子パネル検査「PleSSision(プレシジョン)検査」を導入しました。また、2019年からは保険診療による遺伝子パネル検査を開始し、NCCオンコパネル、FoundationOne CDx、FoundationOne Liquid CDxを実施しています。これらの検査を受けるためには、毎週月曜・木曜の午後に開設されている「がん遺伝子外来」を受診する必要があります。			
3	上記の外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し	慶應義塾大学病院 がんと診断された方へ「4.がんゲノム医療」			
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス	https://www.hosp.keio.ac.jp/annai/raiin/cancer/			
4	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている(はい/いいえ)					はい
5	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)					はい
	窓口の名称		がん相談支援センター			
	電話番号		03-5363-3285	(内線)		
6	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)					はい
	窓口の名称		腫瘍センター・ゲノム医療ユニット			
	電話番号		03-5315-4374	(内線)		

3) **腫瘍センター・口腔機能ケア** 外来の問い合わせ窓口 ※枠内に専門外来の名称を記載してください

1	対象となる疾患名		外来化学療法の対象となるがん全般			
2	主な診療内容・特色		外来化学療法前・中・後の口腔機能ケア、外来化学療法に起因する口腔粘膜炎の治療、化学療法前の口腔感染巣のスクリーニングを実施しています。腫瘍センター外来治療室内に設置した歯科診察室に歯科医師が常駐し、検査や治療の待ち時間などに歯科の診察、口腔ケアの指導が受けられます。			
3	上記の外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し	KOMPAS 口腔機能ケア			
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス	https://kompas.hosp.keio.ac.jp/contents/000675.html			
4	他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている(はい/いいえ)					はい
5	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)					はい
	窓口の名称		がん専門初診外来予約窓口			
	電話番号		03-5363-3020	(内線)		
6	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい/いいえ)					はい
	窓口の名称		外来予約窓口			
	電話番号		03-3353-1257	(内線)		

1	追加で記載を希望する外来がある場合には、以下に疾患名等の情報を自由に記載してください。					

院内がん登録部門の体制

記載の有無

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

あり

病院名：慶應義塾大学病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

※院内がん登録業務に携わっているスタッフを記載してください。

注1) 様式4の回答と齟齬がないようにすること。

注2) 常勤とは原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が、「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいう。

	資格	診療情報管理業務の経験年数(年)	院内がん登録業務の経験年数(年)	常勤/非常勤	院内がん登録業務についての専従/専任/その他	がん対策情報センターによる院内がん登録実務 初級者研修会・中級者研修会の修了状況 研修会名・受講状況
例	診療情報管理士	4	2	常勤	専従(8割以上)	初級認定者(みなし含む)
例	なし	1	1	非常勤	専任(5割以上8割未満)	初級認定試験・受験なし
1	診療情報管理士	30	14	常勤	その他	中級認定者
2	診療情報管理士	14	14	常勤	専従	中級認定者
3	診療情報管理士	8	7	常勤	専従	中級認定者
4	診療情報管理士	11	10	常勤	専従	中級認定者
5	診療情報管理士	11	9	常勤	専従	中級認定者
6	診療情報管理士	13	7	常勤	専従	中級認定者
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

臨床試験・治験の実施状況および問い合わせ窓口

記載の有無 **あり**

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 慶應義塾大学病院

1. 臨床試験・治験の問い合わせ窓口

令和4年9月1日時点

1) 【臨床試験(治験を除く)】の問い合わせ窓口

■臨床試験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について		臨床試験専用の窓口がある							
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	☐	電話	☐	FAX	☐	電子メール	☐
窓口の名称		慶應義塾大学病院 患者総合相談部 総合相談窓口							
1	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	総合相談窓口のご案内						
		アドレス	https://www.hosp.keio.ac.jp/annai/raiin/soudan.html						
	電話番号	03-5363-3638		(内線)					
■臨床試験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について		臨床試験専用の窓口がある							
※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	☐	電話	☐	FAX	☐	電子メール	☐
窓口の名称		慶應義塾大学病院 患者総合相談部 総合相談窓口							
2	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	総合相談窓口のご案内						
		アドレス	https://www.hosp.keio.ac.jp/annai/raiin/soudan.html						
	電話番号	03-5363-3638		(内線)					

2) 【治験】の問い合わせ窓口

■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について		治験専用の窓口がある							
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	☐	電話	☐	FAX	☐	電子メール	☐
窓口の名称		慶應義塾大学病院 患者総合相談部 総合相談窓口							
1	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	総合相談窓口のご案内						
		アドレス	https://www.hosp.keio.ac.jp/annai/raiin/soudan.html						
	電話番号	03-5363-3638		(内線)					
■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について		治験専用の窓口がある							
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	☐	電話	☐	FAX	☐	電子メール	☐
窓口の名称		慶應義塾大学病院 患者総合相談部 総合相談窓口							
2	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	総合相談窓口のご案内						
		アドレス	https://www.hosp.keio.ac.jp/annai/raiin/soudan.html						
	電話番号	03-5363-3638		(内線)					

政策的公衆衛生的に必要な性の高い調査研究に対応する窓口

記載の有無
あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 慶應義塾大学病院

令和4年9月1日時点

この別紙は、現況報告書としては公開せず、国立がん研究センターでの窓口登録にのみ活用いたします。

1. 調査研究の問い合わせ窓口

1) 【政策的公衆衛生的に必要な性の高い調査研究】に関する問い合わせ窓口

※メールアドレスに関しては、一つは特定の個人に帰属するものではなく、共有で活用されているものを登録してください。
共用のメールアドレスが存在しない場合には、2人以上の個人のメールアドレスを記載してください。
(職員の異動・退職等で連絡が取れなくなる懸念があるためです。)

政策的公衆衛生的に必要な性の高い調査研究に対応する窓口についての情報						
1	窓口の名称(〇〇係等)	医事統括室(腫瘍センター)				
	メールアドレス※	gan-kyoten@adst.keio.ac.jp				
	電話番号	03-5363-3938	(内線)			
2	窓口の名称(〇〇係等)					
	メールアドレス※					
	電話番号		(内線)			

医療の質の改善の取組について

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名:

慶應義塾大学病院

時期・期間:

令和4年9月1日時点

QI研究への参加状況	
国立がん研究センターのQI研究に参加している	はい

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙19を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無	あり	(あり／なし)
ファイル形式	その他	(ワード／エクセル／パワーポイント／その他)
その他の場合ファイル形式を記載してください。	PDF	

【自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制】

別添PDFファイルあり

医療安全管理等の体制について

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 慶應義塾大学病院

時期・期間： 令和4年9月1日時点

- ①ー1 医療安全管理部門が配置されている。

はい

 ((はい/いいえ))
- ①ー2 医療安全管理部門がある場合に、そのメンバーについて記載してください。(①ー1が”はい”の場合のみ、①ー2に回答してください。)
- 注1) 研修医は除いてください。

注2) 常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。

注4) 「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」(平成19年3月30日付け医政発0330019号厚生労働省医政局長通知及び薬食発第0330009号厚生労働省医薬食品局長通知)に基づく研修を想定しています。

		職種	常勤 /非常勤	専従/専任/その他	医療安全に関する研修の受講状況(注4)		
					受講した研修名	研修主催者名	修了日
1	部門長	医師	常勤	その他(5割未満)	2020年度特定機能病院管理者研修(継続・5時間)	公益財団法人 日本医療機能評価機構	令和3年11月11日
2		医師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成講習会	一般社団法人 日本病院会	平成30年12月1日
3		医師	常勤	その他(5割未満)	医療安全管理者養成講習会	一般社団法人 日本病院会	令和3年12月4日
4		看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修会	一般社団法人 医療の質・安全学会	平成28年12月10日
5		看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修会	一般社団法人 日本臨床医学リ スクマネジメント学会	平成28年8月7日
6		薬剤師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修会	一般社団法人 医療の質・安全学会	令和2年1月12日
7		薬剤師	常勤	専従(8割以上)	2020年度特定機能病院管理者研修(継続・1日間)	公益財団法人 日本医療機能評価機構	令和3年12月23日
8		その他	常勤	その他(5割未満)	2020年度特定機能病院管理者研修(継続・1日間)	公益財団法人 日本医療機能評価機構	令和4年1月19日
9							
10							

■上記一覧において「その他」を選んだ場合、下記に詳細を記入してください。

	職種
例	臨床工学技士(上記リスト6番)
1	臨床工学技士(上記リスト8番)
2	
3	
4	
5	

②第三者による評価に関する状況について記載してください。

	活用した第三者評価	最終評価日	有効期間 (定められている場合のみ記)
例	JCI	平成30年〇月〇〇日	令和5年〇月〇〇日
例	ISO9001	令和元年〇月〇〇日	令和6年〇月〇〇日
例	日本医療機能評価機構 病院機能評価	平成29年〇月〇〇日	令和6年〇月〇〇日
1	日本医療機能評価機構病院機能評価	平成29年11月10日	令和4年11月9日
2	特定機能病院監査委員会	令和4年8月1日	
3			
4			
5			

緩和ケアセンターのメンバー（医師および医師以外の診療従事者）

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 慶應義塾大学病院

時期・期間： 令和4年9月1日時点

緩和ケアセンターのメンバーについて記載してください。

- 注1) 様式4の回答と齟齬がないように記載してください。
注2) 研修医は除いてください。

注3) 常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注4) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。

※ジェネラルマネージャーは、緩和ケアセンターの機能を管理・調整する常勤・専従、かつ院内において管理的立場の看護師であること。
※相談支援に携わる者については、相談支援センターの相談支援に携わる者との兼任および、相談支援センター内にて当該業務に従事することを可とする。ただし、この場合の専任とは、緩和ケアセンターにおける相談支援業務を中心となって担当していればよく、その就業時間の5割以上を緩和ケアセンターにおける相談支援業務に従事していることは求めない。

緩和ケアセンターの医師について

	役割	人数	診療科の内訳
例	身体症状の緩和に携わる医師	3	麻酔科2名（※内1名は緩和ケアセンター長）、消化器外科1名
	身体症状の緩和に携わる医師	3	緩和ケアセンター 3名（麻酔科、外科、内科 各1名）
	精神症状の緩和に携わる医師	1	緩和ケアセンター1名（精神・神経科、緩和ケアセンター長）

緩和ケアセンターの看護師について（ジェネラルマネージャーおよび専門資格を有する者のみ記載してください。）
※専門資格を複数有している場合や欄に入りきらない場合は下の自由記載欄も使用してください。

	センターでの役割	常勤/ 非常勤	専従/専任 /その他	専門資格
1	ジェネラルマネージャー	常勤	専従(8割以上)	
2	ジェネラルマネージャーではない 看護師	常勤	専従(8割以上)	がん性疼痛看護認定看護師
3	ジェネラルマネージャーではない 看護師	常勤	専従(8割以上)	緩和ケア認定看護師
4	ジェネラルマネージャーではない 看護師			
5	ジェネラルマネージャーではない 看護師			
6	ジェネラルマネージャーではない 看護師			
7	ジェネラルマネージャーではない 看護師			

緩和ケアセンターの医師・看護師以外の診療従事者について

	職種	常勤/ 非常勤	専従/専任 /その他	専門資格（取得している場合）
8	薬剤師	常勤	その他(5割未満)	緩和薬物療法認定薬剤師
9	薬剤師	常勤	その他(5割未満)	緩和薬物療法認定薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師
10	薬剤師	常勤	その他(5割未満)	緩和薬物療法認定薬剤師

11	社会福祉士	常勤	その他(6割未満)	社会福祉士
12	管理栄養士	常勤	その他(7割未満)	
13	医療心理に携わる者	常勤	その他(8割未満)	公認心理師(臨床心理士)
14	精神保健福祉士	常勤	その他(9割未満)	社会福祉士、認定がん専門相談員
15				
16				
17				

	自由記載欄
例	ジェネラルマネージャー以外の看護師(上記リスト3番:がん看護専門看護師の他、がん性疼痛看護認定看護師資格有り)
例	事務員(上記リスト12番)
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

特定のがん種に対する集学的治療提供体制について

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
なし

病院名： 慶應義塾大学病院

期間： 令和3年1月1日～12月31日

特定のがん種に対する集学的治療提供体制について、都道府県内で最も多くの患者を診療していることを明記し、必要に応じ図等を用い
わかりやすく説明してください。

このシートのほかに資料がある場合は、**ファイル名の頭に別紙22を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 (あり／なし)
ファイル形式 (ワード／エクセル／パワーポイント／その他)
その他の場合ファイル形式を記載してください。

特定のがん種	
年間新入院患者数	人
年間新入院当該がん患者数	人
年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合	%
年間外来当該がん患者のべ数	人
年間院内死亡当該がん患者数	人
当該がんに係る年間の手術件数	件
当該がんに対する年間の化学療法件数	件
※経口または静注による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。	
当該がんに係る年間の放射線治療件数	件
※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。	

特定のがん種	
年間新入院患者数	人
年間新入院当該がん患者数	人
年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合	%
年間外来当該がん患者のべ数	人
年間院内死亡当該がん患者数	人
当該がんに係る年間の手術件数	件
当該がんに対する年間の化学療法件数	件
※経口または静注による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。	
当該がんに係る年間の放射線治療件数	件
※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。	

特定のがん種	
年間新入院患者数	人
年間新入院当該がん患者数	人
年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合	%
年間外来当該がん患者のべ数	人
年間院内死亡当該がん患者数	人
当該がんに係る年間の手術件数	件
当該がんに対する年間の化学療法件数	件
※経口または静注による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。	
当該がんに係る年間の放射線治療件数	件
※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。	

がん診療連携拠点病院等との連携診療体制について

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
なし

病院名: 慶應義塾大学病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

緊急な治療が必要な患者や合併症を持ち高度な周術期管理が必要な患者に対するがん診療連携拠点病院等と連携による診療体制について、必要に応じ図等を用いわかりやすく説明してください。
このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙23を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 (あり／なし)
ファイル形式 (ワード／エクセル／パワーポイント／その他)
その他の場合ファイル形式を記載してください。

【緊急な治療が必要な患者や合併症を持ち高度な周術期管理が必要な患者に対するがん診療連携拠点病院等と連携による診療体制】

特定領域がん診療連携拠点病院の人材交流について

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
なし

病院名： 慶應義塾大学病院
時期・期間： 令和3年1月1日～12月31日

※他の拠点病院等との人材交流計画について記載してください。
※個人名やPHSの番号が記載されていないことをご確認ください。

	受入／派遣	期間	職種	(受入元／派遣先)医療機関名	専門分野
例	受入	令和3年4月1日～9月30日	看護師	XX病院	がん看護認定看護師
例	派遣	令和3年10月1日～12月31日	医師	YY病院	上部消化器外科
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

グループ指定の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

なし

病院名:

慶應義塾大学病院

■グループ指定のがん診療連携拠点病院との定期的なカンファレンスの開催実施件数

期間: 令和3年1月1日～12月31日

■グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院との連携と役割分担の状況

時期: 令和4年9月1日時点

	がん医療圏名	医療機関名	連携内容(がんの種類と役割分担)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

グループ間の人材交流計画について

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 慶應義塾大学病院

時期・期間： 令和3年1月1日～12月31日

※グループ指定施設間での人材交流計画について記載してください。

※個人名やPHSの番号が記載されていないことをご確認ください。

	受入／派遣	期間	(受入元／派遣先)医療機関名	専門分野
例	受入	令和3年4月1日～9月30日	XX病院	消化器外科
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

グループ指定の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

なし

病院名:

慶應義塾大学病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

	がん医療圏名	医療機関名	連携内容(がんの種類と役割分担)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

都道府県協議会の内容

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
なし

病院名： 慶應義塾大学病院

時期・期間： 令和3年4月1日～令和4年3月31日

※以下は、都道府県拠点病院への指定を希望する病院のみ記載してください。現状の把握にのみ使用し、指定の検討会では使用しません。

●令和3年度に開催した都道府県協議会について記載してください。

- (1) 患者本位のがん医療を実現する等の観点から、当該都道府県における対策を強力に推進するための議論を行った。
- (2) 都道府県全体のがん医療等の質の向上のために、都道府県内のどこに住んでいても適切な診断や治療にスムーズにアクセスできる体制を確保すべく、以下の議論を行った。
- ① 地域の実状に応じて、医療機関間の連携が必要な医療等について、都道府県内の各拠点病院等及び他のがん診療を担う医療機関における役割分担を整理・明確化し、その内容を関係者間で共有するとともに広く周知した。
- ② 地域がん診療病院とがん診療連携拠点病院とのグループ指定の組み合わせを調整・決定した。
- ③ 都道府県内の拠点病院等の院内がん登録のデータやがん診療、緩和ケア、相談支援等の実績等を共有、分析、評価、公表等を行った。
- ④ 各都道府県とも連携し、Quality Indicatorを積極的に利用するなど、都道府県全体のがん医療の質を向上させるための具体的な計画を立案・実行した。
- ⑤ 院内がん登録実務者の支援を含めて都道府県内のがん関連情報収集や利活用等の推進に取り組んだ。
- ⑥ 地域における相談支援や緩和ケアの提供体制・連携体制について協議を行い、拠点病院等の間で情報共有や役割分担を含む連携体制を整備した。
- ⑦ 当該都道府県における特定機能病院である拠点病院等と連携し、地域におけるがん診療に従事する診療従事者の育成及び適正配置に向けた調整を行った。
- ⑧ 整備指針Ⅱの4の(3)に基づき当該都道府県における拠点病院等が実施するがん医療に携わる医師等を対象とした緩和ケアに関する研修やその他各種研修に関する計画を作成している。
- ⑨ 当該都道府県内の医療機関における診療、緩和ケア外来、がん相談支援センター、セカンドオピニオン、患者サロン、患者支援団体、在宅医療等へのアクセスについて情報を集約し医療機関間で共有するとともに、冊子やホームページ等でわかりやすく広報している。
- ⑩ 国協議会との体系的な連携体制を構築している。
- ⑪ 国立がん研究センターによる研修に関する情報や国協議会での協議事項が確実に都道府県内で共有・実践される体制を整備している。
- ⑫ 感染症のまん延や災害等の状況においても必要ながん医療を提供する体制を確保するため、当該都道府県や各がん医療圏におけるBCPIについて議論を行った。
- ⑬ 地域における医療情報の共有の取組について、がんの分野からも検討し、体制整備に取り組んでいる。

【参考】

- 令和3年4月1日～令和4年3月30日に開催した都道府県協議会の参加者について
- 同一都道府県内の全ての拠点病院等が参加した
- 都道府県庁等の行政の参加があった
- 拠点病院等以外の地域のがん診療を行う者の参加があった
- 小児がん拠点病院等の、小児がん診療を行う者の参加があった
- がん患者・経験者やその家族や患者団体等の意見を代表する者の参加があった

- 都道府県協議会の広報体制について
- 都道府県協議会についてわかりやすく広報を行うためのWebサイトがある。
- Webサイトや、冊子等で、都道府県協議会で議論された内容を広報している。

WebサイトのURL

- 令和3年4月1日～令和4年3月30日に開催した都道府県協議会での議論の内容について
- 都道府県協議会の議題や議事録等、議論の内容がわかる資料を提出すること。(ファイル名の頭に別紙28を付けること)